別表５
⑶

主　論　文　要　旨

No.1

報告番号	甲　乙　第　　号	氏　名	川村　崇郎

主 論 文 題 名：

糖尿病を有する高齢者の低血糖に関する研究

（内容の要旨）

１．背景と目的

高齢者は糖尿病の有病率が高く、合併症による深刻な影響を受けやすい。しかし高齢者の療養状況には多様な問題が報告されており、セルフマネジメントの促進を目指した教育的支援が不可欠である。本論文は、高齢者の糖尿病に関する療養経験および教育的支援の実態を明らかにすることを目的とした。研究目的の達成のため、本論文では３つの研究に取り組んだ。

２．研究１：　２型糖尿病を有する高齢者への教育的支援の方向づけ

２型糖尿病はライフスタイルに影響されるため、個別的な教育的支援が必要である。特に外来患者の増加に伴い、外来における教育的支援の重要性は高いが、環境的制限や看護師の教育能力等の課題が示唆される。そこで本研究では、外来看護師６名を対象とし、２型糖尿病を有する高齢者に教育的支援を行う場面で、教育の方向性をどのように決定するのか明らかにすることを目的とした。研究デザインは質的帰納的研究であり、研究方法にはグラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。主なデータ収集方法は半構造的面接で、教育的支援の目標や方法、高齢者への支援内容、研究参加者の思考や判断等の情報について収集した。分析の結果、【療養スタイルの変化の可能性の評価】というコアカテゴリーを中心とした現象が明らかとなった。看護師が、高齢者の療養行動に関連する能力の高さや性格等をもとに療養スタイルの変化の可能性を評価することで、変化に向けた教育、現状維持という方向性、方針の見直し等の異なる方向性に至っていた。療養スタイルの変化の可能性の評価は、個々に適した教育の方向性を導き、高齢者の安全を担保するために必要と考えられた。しかし療養スタイルは、高齢者自身の療養経験に影響を受けて変化するため、糖尿病を有する高齢者の療養経験について明らかにする必要がある。特に本調査においては、療養上の問題の中でも低血糖は危険性が高いと認識されていた。そこで、糖尿病を有する高齢者の低血糖に関する経験について明らかにする必要があると考えた。

３．研究２：　糖尿病をもつ高齢者の低血糖に関する語り

本研究では、1年以内に低血糖を経験した65歳以上の糖尿病を有する高齢者13名を対象とし、低血糖に関してどのような経験をしているのか探究することを目的とした。研究デザインは質的帰納的研究であり、主なデータ収集方法は半構造的面接で、質問の内容は低血糖経験時の場面の詳細や、低血糖経験前後の血糖コントロールや療養状況、低血糖に対する思いや受けとめについ

てであった。テーマ分析を用いて分析し、その結果、《コントロールがきかないもどかしさ》、《自己肯定感を伴う低血糖のコントロール》、《自己管理という心得》、《低血糖との折り合い》という 4 つのテーマと、12 のサブテーマが抽出された。高齢者は負担感情のみではなく、低血糖のコントロールに関して自己肯定感を抱く場合があり、《自己肯定感を伴う血糖コントロール》や《自己管理という心得》を後ろ盾として選択的に《低血糖との折り合い》をつけると考察された。低血糖に関連した心理的側面として、先行研究で負担感情は散見されるが、自己肯定感のような陽性感情との関連を報告するものは少ない。このような低血糖コントロールに関する陽性感情を糖尿病患者への教育的支援の場面で応用するため、さらなる調査が必要と考えられた。

４．研究３：　糖尿病患者の Hypoglycemic Confidence に関する研究

研究 2 で報告された《自己肯定感を伴う低血糖のコントロール》は、Hypoglycemic Confidence（低血糖の予防や対処に対する自信）に類似する概念と考えられた。糖尿病を有する高齢者が低血糖の予防や対処を実施する上では、自己肯定的な陽性感情の維持が重要であると研究 2 で推察された。そこで本研究の目的は、糖尿病患者の Hypoglycemic Confidence の実態を調査し、関連要因を明らかにすることとした。研究デザインは横断的研究であり、20 歳以上の糖尿病患者を対象とし、自記式質問紙と診療録の閲覧により、患者の基本属性、糖尿病と治療、Hypoglycemic Confidence、Self-Efficacy に関する情報を収集した。Hypoglycemic Confidence は Hypoglycemic Confidence Scale（以下、HCS）、Self-Efficacy は General Self-Efficacy Scale（以下、GSE）を用いて測定した。分析には主に相関分析と、群間比較の目的で χ^2 検定や t 検定を用いた。分析の結果、HCS スコアと GSE スコアには正の相関関係が確認され、群間比較では HCS スコアが高い群は GSE スコアの平均値が高かった。また、有病期間が長期間の群は短期間の群より HCS スコアの平均値が高かった。先行研究の示唆も考慮すると、低血糖コントロールに関する自己肯定的な陽性感情はセルフマネジメントの向上において重要であり、療養経験を通して培われると考えられる。看護師は低血糖コントロールに関する糖尿病患者の自己肯定的な陽性感情の維持・向上を目指して、低血糖の予防や対処等を含む一連の療養経験を振り返り、患者自身が自己の対処行動や能力を肯定的に評価、自覚できるように支援する必要があると考えられた。

５．総括

研究 2 と 3 の結果から、糖尿病を有する高齢者は、療養上で低血糖を繰り返しながらも、そのコントロールに関して自己肯定的な陽性感情を抱くことが明らかとなり、この陽性感情はセルフマネジメントの促進において重要と考えられた。研究 1 では、低血糖のような危険性の高い問題が予測される際に、看護師は高齢者の療養行動に関連する能力や性格等をもとに療養スタイルの変化の可能性を評価する場合があると明らかになったが、その際に療養経験に根差した自己肯定的な陽性感情も評価する必要性が考えられる。低血糖コントロールに関する自己肯定的な陽性感情を維持・向上できるように支援することで、高齢者は単に低血糖を軽視したり、不安や恐怖等の苦痛を自覚するだけで終わらず、セルフマネジメントの向上が期待されると考えられる。